STROKE LAB / CLINICAL NOTE

実施条件と5つの指標

正規の採点を済ませてから転記します。指標の100は満点ではなく、平均です。

対象者ID：　　年齢：　　歳　教育歴：　　年

実施日：　　／　　／　　検査者：　　全版 ・ 短縮版 ・ 一部

開始：　　時　　分　終了：　　時　　分　前回の実施日：

視聴覚・理解・失語・注意・移動／上肢・疲労・中断など：

正式な結果の転記（粗点や正答率とは異なります）

指標	指標得点	換算・解釈の補足
言語性記憶		
視覚性記憶		
一般的記憶		
注意／集中力		
遅延再生		

未実施・算出不可はその旨を記載。短縮版で遅延再生指標を推定しない。 指標は平均100・標準偏差15の尺度。85や70を一律の診断基準にはしない。

適用年齢16〜74歳の確認／年齢範囲外の場合に用いた参考資料：

課題別の観察と時間管理

自発的な反応と促し後の反応を区別。正式な教示・時間・採点は正規検査法で確認。

ID：_____ 実施日：____／____／____

課題・視点	反応・発言・誤り	時刻／促し／条件
情報と見当識 全般的な状態／指標算出外		
精神統制 系列の保持・抜け		
図形の記憶 模様の再認／誤選択		
論理的記憶I 直後の内容・抜け・付加		
視覚性対連合I 図形と色の結び付き		
言語性対連合I 語の組の学習・混同		
視覚性再生I 図を隠してからの描画		
数唱 順唱／逆唱・聞き取り		
視覚性記憶範囲 位置・順序の再現		
論理的記憶II 時間後の物語再生		
視覚性対連合II 時間後の図形と色の想起		
言語性対連合II 時間後の語の組の想起		
視覚性再生II 時間後の図形再生		

各I・IIの時刻や遅延時間を記録。モデルを見たままの模写や、予定外の復習・再提示を、標準条件の再生成績と同じように扱いません。

解釈の保留点・追加で確かめたいこと：

STROKE LAB / CLINICAL NOTE

結果を生活支援につなぐ

得意・苦手は支援を選ぶ仮説です。実際に役立つかを別の生活課題で確かめます。

ID：　　目標とする用事（いつ・どこで・何を）：

根拠となる観察（得点だけでなく実際の反応）：

試す支援（情報を区切る、メモ、写真、通知、確認場所など）：

成功の定義／どの援助までを「自力」とするか：

生活課題での試行記録

日付・場面	用いた支援	完了／必要な声かけ・介助

支援前：自力完了 ____ 回／ ____ 機会 支援後： ____ 回／ ____ 機会

翌日や別の場面の結果／次に変更すること：

2026.10.24 • 個人情報は所属施設の規程に沿って管理してください。

STROKE LAB / CLINICAL NOTE

解釈の手引きと確認資料

正式な検査用紙の代用品ではなく、評価から生活支援へつなぐ独自の補助票です。

記入例：直後は言えるが、活動を挟むと抜ける

観察：「説明直後は内容を話せるが、別の活動後には用件が出ない」。仮説：「情報を使う時に取り出せる仕組みが必要」。生活支援：「その場で予定帳に残し、通知後に今日の欄を見る」。成果：「通知を確認」「予定を見る」「実行」を分け、5機会中の自力完了数と援助量を記録する。これは架空の生活支援例で、WMS-Rの教示・採点例ではありません。

最終確認：数字の意味を変えない

① 平均100・標準偏差15の指標。100点満点や正答率ではない。

② 一般的記憶を、言語性・視覚性の指標得点の単純平均で作らない。

③ 遅延再生指標は4課題から算出。論理的記憶II単独ではない。

④ 75歳以上に74歳の基準をそのまま流用して同年齢判定をしない。

⑤ 再検査の上昇に練習効果を考慮。生活での変化も確かめる。

収録していないもの

正式な刺激図形、物語、語の組、教示、提示・中止の細則、採点換算表は含みません。これだけで実施・採点はできません。日本版の正規検査法と記録用紙を併用してください。

主な確認資料（クリックで開きます）

日本文化科学社：日本版WMS-R 製品情報

出版社説明資料：課題構成・指標の対応

Kawanoら（2013）：75歳以上の論理的記憶

Theisenら（1998）：WMS-Rの練習効果

Moriら（2025）：手書き版論理的記憶の研究

Velikonjaら（2023）：INCOG 2.0 記憶リハ（TBI）

情報確認：2026年10月24日。公開資料・論文を照合。正規マニュアル全ページの確認を代替するものではありません。